

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301017		
法人名	鈴鹿インター株式会社		
事業所名	さつきの里グループホーム		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町字北上ノ割2020-3		
自己評価作成日	令和元年10月31日	評価結果市町提出日	令和2年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2470301017-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和元年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを日々心がけ、利用者様・職員が共に安心でき、笑顔あふれる生活が出来るよう支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所では職員会議をはじめいろいろな場で、管理者と職員、職員間での話し合いがよくなされ、職場に明るい雰囲気がかもし出されて職員は頑張っている。また、利用者の心身の状況を把握しながら、個別の対応を工夫されている。特に排泄支援には職員育てと位置付けた取り組み方が良好である。そして、さまざまな問題や悩みを抱える家族、周囲の無理解に困っている家族に対して相談に応じ、よく話合っており、その気持をよく汲み取っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度の外部評価後、スタッフ全員で見直した理念に変更になり、より一層共有できている	以前から職員より異論のある理念だったが、昨年見直すことになり職員全員で議論した。その結果「一人一人の思いを大切に健やかな生活を願い そっと寄り添う支援」を理念に決め、壁等に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学校の体育祭・文化祭に招待され出向いたり、施設イベント・外食で交流を計っている	周辺は工場と畑作地帯で住宅が少ないが、小中学校が近く、体育祭等学校行事に参加している。事業所のイベントは費用を本社負担とし、家族や地域の関係者を招待しボランティアも参加して大々的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設イベントでは地域の方・家族様に支援している所を実際見ていただき、中学生職場体験を通じて生徒・先生・生徒家族様に理解していただけるように心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、近況報告を通して、利用者様・スタッフ・支援等の把握・理解していただき、皆様の意見をサービス向上に活かしている	家族の参加が少ないが、地域関係者の中には認知症に理解を得られず、家族のつらい思いを無視する発言をするので、あえて家族に参加を求めている。事故報告は家族に連絡した上、推進会議にもしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議を通じ包括センター、地域の方々に実情・取り組みを伝え協力関係を築けるよう取り組んでいる	行政には運営上で分からないことがあれば電話で問い合わせしており、市役所にはあまり行かない。しかし利用者や家族に関わることは地域包括とよく話し合い、関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一度の職員会議・推進会議などで身体拘束への理解・意識を高め安全を確保できる範囲で身体拘束をしないケアをしている。玄関施錠はしていないが、駐車場に通ずる門は施錠している	無制限に歩き続ける障害で家族も世話しきれず、受け入れ後は家族了解で車いすにもらった。すぐに職員をたたく人もいるが、拘束はしていない。ヒヤリハットと事故報告の連続であるが、拘束より事故はつきものとして対処している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1階管理者・2階ケアマネが現場に入り、身体的・心理的・介護放棄はないか、スタッフの支援状況把握し、見逃さないように日々意識して、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は理解している、今後必要性があれば支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明をし、不安や疑問に対してもケアマネも理解し対応させていただき、計画書にも取り入れスタッフも共有するようにしている。解約の際の相談も対応させていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見・苦情受付箱を設置しており、月1度は相談員に來所していただいている。家族様からの意見・苦情受付箱の対応をしている	家族は始終来訪しており、その度に職員とよく話し合っている。家族から要望・意見あれば具体化するようになっている。しかし家族が集まる場がなく、家族間で意見交換する機会はつくられていない。	利用者はさまざまな問題点を抱え、家族はその対応に困ってきたと思われる。共通の課題や悩みを抱える家族同士で話し合えるよう、事業所がその場を提供する等、その具体化を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の職員会議に施設長・事務長も同席し、日頃の職員の意見・疑問・改善案を書き出した物を議案にして会議を行っている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切に心がけ、職員の意見を聞き出しやすい環境づくりに努めている	職員会議では、運営管理上の意見交換、サービス担当者会議等を行っている。管理者(介護職兼)は年1~2回、職員との個人面談をしている。職員の勤務年数は比較的長く、職員間で病欠をカバーしたり、確執もなく、安定した職場である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・事務長には、月1回会議に同席・日頃の勤務状態をみて評価してもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要研修に参加し、研修後は研修記録を提出してもらい、会議の時間の中で記録を元にスタッフに共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が機会を作ることはないが、ずっと続いている小・中学校行事・おたっしや広場作品展などで他の施設との交流がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は、ご本人との面会と関係者(施設等)にご本人現在の状態を詳しく聞きとり、安心できるサービスにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時には、家族様と時間をかけて話し合い信頼関係を築く努力し、安心していただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの支援が出来ること、出来ないことを理解していただき、最適なサービスが出来るよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年されてきた家事仕事の中で、個々の出来る、出来ない事を把握して、役割分担し支え合っている。食事・外食など一緒に楽しみ、様々な時間を共有している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告を行い、状態に変化があった時など家族様の意見を尊重したうえで支援し支え合っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が、施設に訪ねて来やすいよう努めている。毎年年賀状が届き喜ばれている。ご家族と馴染みの場所に外出されることもある	親せきや知人・近隣者の来訪もあり、盆正月や法事等があれば家族が迎えに来ており、馴染みとの関わりは続けられている。しかし無理解な地域の人もあり、事業所も家族も対応に苦労している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	独立しないよう自席配慮している。体の不自由な方を見守り、気にかけてくださり、手助けしてくださる、微笑ましい場面があって、いつもの顔ぶれに安心した表情で会話がはずむ様子もみられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後は疎遠になることが多いが、サービス終了後、必要に応じて相談・支援できる体制はある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃、接する中で一人ひとり思いを感じ取りながら、本人本位に支援できるよう努めている。家族様からも情報を得るようにしている	職員は担当制であるが、担当にこだわらず利用者の言動をよく話し合い、ニーズを共有している。理解不十分な職員がいれば、本人には勉強してもらい、周囲はカバーしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時にご本人・家族様に面談させていただき生活歴を把握し、同じ時間を過ごす中からも得手不得手な事の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢の方が多く、その日の体調や表情・顔色に気を配り、申し送りを含めて、小さな変化に気をつけて、その時その時での介助方法を変えている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議での話し合い、ご家族の意見を必ず伺い、意見を反映し、本人が必要とするケアを第一に考え作成している	モニタリング、ケアプランは3カ月毎に見直しているが、症状の進行が早まればその都度に見直す。職員会議では1回あたり2~4人分を検討するが、ケアプランは事前、事後に家族と意見交換している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは、介護日誌に詳しく記入し、申し送りノートも活用して情報を共有している。会議等で検討し計画書の見直ししている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や心情、状況は変化していくため、その都度検討し柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設するDSにボランティアの方が慰問に来られた時に見学に行ったり、昔からある親しんだ所に外出に出かけたりして楽しい時間を過ごしたりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設時からのかかりつけ医がいる。月2回の往診・緊急時対応していただいている。家族様希望である別の病院の情報交換も協力している	2名のみ入居前の主治医に通院しているが、利用者はほとんど入居後は協力医をかかりつけ医としている。他に脳外科・精神科の専門医に通院する利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在だが、施設連携の主治医・看護師も24時間・休日対応もしていただいている。隣接している看護師にも協力していただく事もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時から、家族様との連絡を欠かさず、病院のケースワーカー・看護との情報交換を必ず行い、利用者様にとって最善を尽くせるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化の方針について説明し、重度化・終末期に予測出来る状況になった時には速やかに家族様に思いを伺い施設で看取りを望まれた際には書面サインしていただき、主治医・職員間でしっかり情報・状態を共有、把握し穏やかに看取りが支援できるよう取り組んでいる	協力医が看取り体制を配慮しており、事業所も以前から看取りに取り組んでいる。家族にはその都度相談の上、看取り対応について文書を交わしている。できるだけ最後まで食事をしてもらうよう支援し、入院する場合は協力医が手配している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はないが、今年4月には救急処置研修に参加し、7月にはAED・心肺蘇生の講習をうけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は行っている。近隣の職員は駆けつける体制もあり、日中は近くの親会社に応援依頼できる体制がある。災害時には近隣施設の協力も書面で交わしている	時期は不定ながら本社も参加し、毎年3回は防災訓練をしている。本年9月は救命救急、その前は夜間想定訓練をした。水害のない地域で、火災と地震に注意している。自主点検は会社として定期に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の意を忘れずに嫌な思いをされないよう、上からの言葉使いにならないよう、適当なごまかしのないよう言葉を考え対応している	1階には自ら食事する意欲のない人がおり、2階は重度者が多いので、いつも声かけに注意している。会話ができない場合、その人の癖で意図を配慮するなど、9人それぞれに工夫をこらした対応に苦労している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表示できる方には思いを伺い希望に添えるよう努めている。そうでない方は、行動・表情・しぐさ等をしっかり観察し、言葉かけを多くし不安を取り除けるよう対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室内でゆっくり過ごしたり、フロアでくつろいだり、健康を害さない範囲で、その方のペースで過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方では、アクセサリーをつけておられたり、施設イベントでは、着物に着替えたりされ、自分らしくおしゃれを楽しんでおられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごぼうのさがきや、もやしのひげ取り、お茶葉の袋詰め、お盆拭き等をしていただいている。「手伝うでな」と声掛けてくださる方もいる	朝夕は職員がメニューと調理に取組み、昼食のみ隣接のデイサービス調理場に業者が来て調理し届けてくれる。食材購入は職員が買いに出かけている。時々外食するが、外食に行けない人には出前をとり、刻みにするなど食べやすくしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は個々に介護日誌で管理し、食の細かい方には盛り付ける量を少なくしたり、刻み職の方には、にぎり寿司もネタを刻んで握り直したり、見た目も気をつけて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に応じて、声かけ・見守り・一部仕上げ介助、全介助を行っている。自力で行えない方は毎食後行っている。入れ歯は洗浄は支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9名中4名が布パンツを使用している。尿意・便意があり、トイレへ行っても失禁されることもあるが、その都度交換し、継続的に自らの意志でトイレに行けるよう支援している	できるだけ布パンツを使用できるよう、入居時から対応を検討している。排泄チェックは目立たないようにしている。排泄支援は職員育ての基本と位置付けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の運動量、水分・食事量など、色んなところから考えて、一人ひとりに応じた対応を取り、主治医の指示で便秘薬服薬している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1度、安全を配慮し午前中に入浴していただいているが、臨機応変に対応している	1人週3回は入浴するようにしており、車いす利用者には人によって2人介助やシャワー浴も行っている。同性介助にならないこともあるが、できるだけ利用者の希望や職員の時間都合を配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝される方、しない方がみえ、就寝時間それぞれである。居室の温度、季節にあった寝具・寝巻を使用できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用・用法・量を理解し、常に状態の変化に気をつけ、主治医と連携して処方していただいている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、好まれることなどを理解し、個々に得意とするお手伝いしていただいている。一緒に会話を持ちながら和やかな雰囲気の中行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそった外出支援は難しいが、外食・外出は安全対策しながら支援している。8月には外出が難しくなった利用者様の家族様から希望があり、その方のためプランを立てて外出を行った	花見や地域行事での外出・外食、近隣の散歩等適宜工夫しながら取り組んでいる。時には家族同伴の外出も行っている。元の住まいや近隣には家族が連れ出すが、皆、日帰りになり泊ることはなくなってくる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度の認知症があることもあり、施設内での必要がないので個人でお金の所持はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望があれば支援しているが、現在入所されている方は希望者がいない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース広く明るい空間があり。毎日丁寧な掃除・整理・整頓を心掛け、トイレは常に清潔を保ち、お風呂は広すぎず安心して入っていただけます。窓から見える山の景色も季節を感じる事ができる	昼間は食堂兼ホールに集まってくるが、男性は自室に入り込むことが多い。集まればテレビを見たり、共同で手芸品等を作ったりしている。できた手芸品等は地域の文化祭やグループホーム協議会の作品展に出している。掃除嫌いの人はいるが、時にはみなで掃除をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・食卓の数も余裕があり、家族・知人の面会時にもゆっくりご自宅のように過ごしていただいている。それぞれが気に入った場所で個々に過ごしてみえます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物などお持ちいただく様、お話をさせていただいている。各居室は様々で1日居室で好きなように過ごされてみえる	自室にはそれぞれ好みの品を持ち込んでいる。男性は自室に入り込むことが多いが、大方テレビを見ながら寝ている方もいる。家族が来るとホールで話し合う場合と自室で話し合う場合が半々である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーで手すりの設置もあり、フローも広く、明るく車いすの移動もスムーズにできる。		